

青山同窓会
会報

発行所
青山同窓会
新潟市関屋下川原町二
新潟高校内

印刷所
オリオン印刷機

五十年年度総会を終えて

総会実行委員長

52回 津野正平

楽しい選挙選を勝ち抜いて誕生した喜びの首長・議員も含め、政界・財界で活躍しておられる先輩諸賢等が一堂に会して、不況克服・新時代建設の決意を胸にいつつも和氣藹々裡に盛大な五十年年度総会が開催出来たことは御同慶に存じます。楽しいアトラクションと、電卓抽選会の企画等で会をも

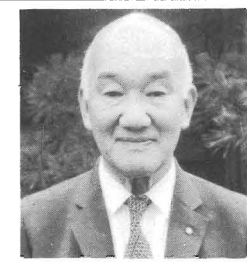
り上げてくれたことは役員の方々の不思議な功徳がある。これから青春發揮のお祭りとして大切に育成しなければならぬ。

○この総会は、まさに社会交際の主力者集団の総会だ。(アタリマイノコトダ)と、声が聞こえる)

○総会の雰囲気は、自分をパン

あけましておめでと〜ございませす

青山同窓会会長 鍵富清一郎



今までは例のない様な不況ムードで、早く明るい見通しがたつことが望まれますね。それでも青山同窓会の諸兄が、全国的に各方面で活躍されていることは同慶にたえません。今年卒業される大学生諸君も、就職戦線きびしい中大変だと思われませんが、がんばってもらいたいものです。母校の地である新潟へもUターンといいますが、大学を出て、就職の為に帰ってくる人も多くなっていると思います。地元在住の同窓諸兄も、ぜひ後輩諸君を受け入れて、活躍の場を与えてやれます様にそれぞれの立場での発展を大いに期待したいと思います。皆であい協力して、七十六年がいい年だったと年末にいえるように、今年もがんばりましょう。ご健康をお祈りいたします。

年に一度の盛大な祭典として開催しなければならぬ実行委員会の責任は重大だと思えます。——明治・大正・昭和の世が、新中・県高という屋根の下から躍り出て、今後とも発展を続けるように、会員各位のご清栄を祈ってやみません。

昭和五十一年は二十世紀の残り四半世紀のはじめの年と言われます。青山同窓会も、清新の気分です。スタートしましょう。五十一年度総会の成功を祈ります。

東京青山同窓会 近況報告

事務局65回 佐藤武行



明けましておめでと〜ございませす。皆様におかれましてはお元気で活躍のことに存じます。昨年同様いろいろなとお世話様になります。

り、厚く感謝申し上げます。一方事務局としては、至らない点が多々あり、皆様にご迷惑をおかけしておりますことを深くお詫び致します。

さて、昨年の総会懇心会は、十一月二十八日に挙行が予定されていまして、公労協のストライキによる国鉄・私鉄のストライキのため、中止せざるを得なくなりました。当日の総会には、約一五〇名の同窓生が集まる予定で、皆さんは大変楽しみにしておられました。仕事等の都合上、止むを得ず欠席される多数の方から、盛會を折るとの便りを寄せられていました。ストライキという突如のハプニングで急転中止となったことは、誠に残念、いくらおし

んでもおしきれない気持ちでした。東京青山同窓会の今年の課題は、運営基金の収入対策と東京在住者会員名簿(関東近県を含む)の作成です。

皆様のご協力をお願いしますとともに、今年一年もお元気で。

東京青山同窓会事務局
東京都世田谷区野沢一三四
一三三
電話〇三四一〇六二九〇
佐藤武行

雪だるま

60回 上杉雅之 (本校教諭)

▲小学校二年の娘が現在特に関心を持っているのが「時間」の問題であるらしい。「一日は何秒なの?」「きのうは何年だったの?」「あしたは何時何秒なの?」ふふ答にたまるときがある。時の流れを「秒」「分」「時間」の単位でできっかりと区切り、刻々新しい時間の動きをとらえるのはいわゆる「おとな」の能力であろう。子供にとっては現在が「秒」であり「分」であり「時間」であり、刻々が無限にふくらみのある時であるように思われるらしい。

▲なにもなかったかのように明け暮れた正月三日の後、一夜明け迎えた白銀の世界の中で雪だるまづくり熱中する八才の娘の姿はあらゆる時間を無視して無限にふくらんでゆくようであった。すぎ去った苦しみも、これから来るであろう苦しみも彼女にとっては何の苦にもならないかのように現在をふくらませて雪だるまに取り組んでいるのだった。

▲昨年末、教え子の一人が九〇

活躍されんことを心からお祈り申し上げます。

東京青山同窓会事務局
東京都世田谷区野沢一三四
一三三
電話〇三四一〇六二九〇
佐藤武行

新中・新潟高校電球部

OB会総会に

中川巨漢先生を、ご招待

大正十三年、中川忠作先生を部長に迎ぎ、新中電球部誕生以来、先生の指導を受けた数多くのOB戦前は青山クラブ(昭和四年発定)を名乗り、電球界に君臨して来たが、終戦、戦後と移り変わり、新潟高校電球部となり現在まで多くの部長が中川先生の後を継ぎ、益々県電球部は活躍しており、電球部関係者は大いに喜びを感じるものであります。四十六年OB会が結成され、堀会長(三十三回卒)の指揮のもと諸行事が進められ、立派な名簿が二回も発行されたり、毎年現役選手を後援したり、又、数回富山市内で健在中川先生を総会に招待し、懐旧談に花を咲かせて来ました。健在といえ中川先生は、本年八十才であります。各OBから久々に先生を総会に招待したらの声が高まり、幹事が計画した処、遠くは徳島大学から黒川一男氏、大阪から真壁秀一氏、東京からは武田市郎氏、名古屋から長井謙吾氏(久代)等全国制覇組を含む四十一名(その他来賓七名)の盛大な総会が次のとおり催されました。

期日 五十年八月十四日午後六時半より、会場 おけき御殿、来賓中川忠作先生、小泉英雄先生、小黒英作先生、本田至先生、永井行蔵先生、大西市郎氏、中野敬止氏。

会議進行は、三林先生から説明あり拍手のうちに終了、ひきつづき懇談会に移り、卒業年度の接近した思い思いのグループを作った座席で宴会が進められた。授業だけで結ばれた師弟関係と違いスポーツで結ばれた吾々の集いは、部長を中心とした苦しかった練習、コーチを招んでの合宿練習、東京遠征等が次々思いに思いに思い、何時しか選手時代の若さに戻り、中川先生は終始笑顔で受け答えされていた。宴たけなわとなり、黒川一男氏の要望あり、私の音頭で校歌、応援歌が始まった。八十才の巨漢先生も手を振りながら思い出している眼で歌って下さった。何時までもこのまま、飲み且つ歌い、語り合いたかった。

中川先生、今日の集いで若返った気分をそのまま富山へ持ち帰り百才を目標に頑張ってください。先生元氣であれば今後何回も会えます。今回は事情あり出席できなかつた方々も顔を出してくるでしょう。浅野豊氏(三十五回卒)の辞で閉会されたのは、九時半頃だった。(倉田記 昭四卒旧姓入江)

尚出席者は以下の諸氏であった。(数字は昭和〇年卒を略したもの) 中川忠作、中野敬止、小黒英作、小泉英雄、本田至、永井行蔵、3、

大西市郎12、以上は来賓、堀2、浅野3、倉田(入江)、金井、樋口4、藤井5、武田、山田(伊藤)6、北川7、早川、若佐8、長井(久代)、稲葉(田子)、堀9、阿部(中川)、小田10、近藤、大野11、今井14、黒川、真壁15、諏訪16、日野17、山岸、黒川18、山田19、小山、広川、谷26、玉木27、高橋、古田28、大西29、大堀30、渡辺35、坂爪36、笠原37、三林39、飯田43、吉田44、関根45 以上

四十四年の忘年会以来、会合が途絶えていた新潟鉄道管理局本局地区同窓会は、十月十七日新潟市万代町の砂山荘にて開催、二十三名のOBが出席した。

午後六時、51回今泉笑顔君の司会者挨拶で進行開始、順次自己を紹介に移る。というのも、日頃同じ屋根の下で顔を合わせても、お互い「青山健児」とは気づかない者も多いからである。

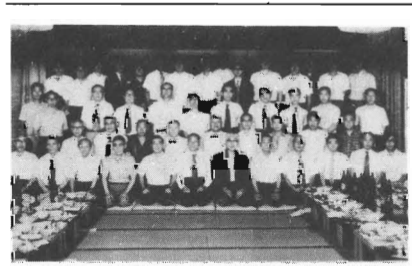
飲むほどに酔うほどに談論風発、青春の思い出話に花を咲かせた。最後は全員起立し、蛮声をほり上げて応援歌、校歌を合唱、盛況のうちに閉会となった。

出席者(数字は卒業回数です) 45市島、46斎藤、47山際、吉沢、48山崎、49佐藤、樋浦、豊島、高

国鉄本局
青山クラブ復活



橋、大木、小林、51今泉、52山森、吉田、53鈴木、十二、55平山、59嘉村、川上、60森鎌田、堀、61小泉、68吉川(60堀、浩一記)



昭和49年度青山同窓会収支決算書 (自昭和49年4月1日 至昭和50年3月31日)

収入の部	科目	決算額	備考
繰越金		112,597	前年度繰越金
入会金		520,500	1年生 1人 400円×449人=179,600円 2、3年生 1人 300円×903人=270,900円 通信制卒業生 1人 1,000円×70人=70,000円
会費		1,398,500	同窓生会費 1口 1,000円 通信制同窓生 500円
雑収入		8,419	預金利子
合計		2,040,016	

昭和50年度青山同窓会収支予算書 (自昭和50年4月1日 至昭和51年3月31日)

収入の部	科目	予算額	備考
繰越金		38,585	前年度繰越金
入会金		598,000	全日制生徒 1人 400円×1,345人=538,000円 通信制卒業生 1人 1,200円×50人=60,000円
会費		1,300,000	同窓生会費 1口 1,000円
雑収入		3,000	預金利子
合計		1,939,585	

(2面最下段より)

アメリカ志願者約九〇〇人のなかから選ばれた四人の中に、高山一郎君が入った。高山君は本校在学中に「ミンクウエイの」誰かのために鐘がなる」の原書を読んだ後、アメリカ文化に興味を持ったという。英米文学を学びたい希望で東大に進学後、アメリカ留学の機会をわらっていったという。

支出の部

科目	決算額	備考
人件費	696,000	職員1人給料手当
通信費	176,375	会報発送、総会、役員会、新年会案内郵便料、振替料負担金
印刷費	41,170	封筒、振替用紙、案内状印刷代
慶弔費	52,020	会員慶弔電報料、香華料、離任職員送別
退職手当積立	100,000	
雑費	18,357	
会報印刷費	250,200	年2回発行会報印刷代
会議費	161,309	総会、新年会、役員会、会議費、クラス会、香華酒料、東京総会、支部総会出席会費及び旅費
卒業生記念品代	141,000	
青陵祭補助	65,000	
予備費	0	
合計	1,701,431	

支出の部

科目	予算額	備考
人件費	800,000	職員1人給料手当
通信費	200,000	会報発送、総会、役員会、新年会案内郵便料、振替料負担金
印刷費	50,000	封筒、振替用紙、案内状等印刷代
慶弔費	50,000	会員慶弔電報料、香華料、離任職員送別
退職手当積立	100,000	
雑費	34,585	
会報印刷費	280,000	年2回発行会報印刷代
会議費	180,000	総会、新年会、役員会、会議費、クラス会、香華酒料、東京総会、支部総会出席会費及び旅費
卒業生記念品代	150,000	
青陵祭補助	65,000	
予備費	30,000	
合計	1,939,585	

「米国と日本は過去に互いの誤解による悲劇が起き、多くの犠牲者が出たが、現在では文化面の誤解があると思います。これからは日本は単一民族の独自性を活かした文化を、逆にアメリカは多様性のある文化をそれぞれ正確に学び合うという努力が必要を時代です」と文化交流の必要性を説く。

本年九月に渡米する同君は更に深刻化している人種問題や地方自治体の財政問題も勉強してきたと意欲を燃している。(二部サンケイ新聞より転載)

同君のアメリカでの健闘を心より祈りたい。

青山V葦原野球戦

39回皆川登良夫

「新潟版早慶復活、張り切る元球児たち」と大きな見出しで新聞に掲載された。

昔懐かしいオールドファンから、とうとう実現しますねと話しかけられた。本当に有難いものだと思

昭和5年頃だったと思いますが、猫山病院下の協会グラウンド(現寄居中学校庭)で試合をし、終了後同軍混合でアンパンを食べた記憶が残っている。私は袖の所に赤線をまいた小黒服を着ていた新潟中学4年生の時代です。

大学も休んで東京から阿部宏(故人)・石山・斎藤・石橋健男・岡田信男氏等の先輩達が帰省されていた8月だと思います。

在校生には現青山野球部同窓会会長の清野準一氏、片桐・宮・日下・松宮等の各上級生がおられまして、OBの人達と編成されたチームでした。練習もしていないのに先輩達のパワーは大したものだと驚いたものです。阿部さんは当時日大野球部に籍を置き活躍中でしたので当然という気持ちでしたが、現在もお元気でいたら俺が先発ピッチャーだといわれるような気がします。亡くなられたのは野球界のため大きな損失だと思えます。

数年前から母校新潟高校野球部の発展と強化に、青山・葦原戦を

な方法でやるか双方から準備委員数人を出して具体案をまとめた、その案について再び葦原側として打合せをしたとのことでした。

復活出来ないものかと大先輩の谷島平三さん、会長の清野さん等に相談したら、葦原の方で承知すればというので葦原側の中村修治氏に、どうです我々も楽しみ、若い人達のため、そして母校の選手に意欲を持たすために試合をしようという位前に話したことがあったのです。

そうしたら大元老に話し、どんな方法でやるか葦原側の意向をまとめてから返事をしますというわけ、私はなるほどと自分自身が少し軽率過ぎたかなと大いに反省した次第でした。

昨年(50年度)の青山野球部同窓会新年会の席上、本年は多分青山・葦原戦が実現出来るさうだから日時が決定したら皆様に連絡する旨話しておきました。同窓会会長の鎌倉さんも出席されておりまして是非実現させるよう努力して下さいと申されました。

青山側のある若い人達から向うはコンシヤルとして社会人野球協会に加入して練習もし、試合もやっている。当方は試合日が決定して初めて集るんだから負けるにきまってるような試合は出たのにくても……という意見も出たのは驚いた一幕もありました。そんなある日葦原側から返事が参りました。何時、どこで、どんな方法でやるか双方から準備委員



大会に出場しているブルーアローズのチームを主体にして、8月に開催の青山・葦原戦に臨むということになりました。

七月中旬から開始された全国高校野球選手権大会新潟県大会に於て新商が「ベスト8」に進んだのです。うまく進展すれば甲子園出場? そうなるかと8月初めの実現は難しいかななどの考えが頭をすみをかすめました。ところが考えていたとおりの進展となりまして新潟商業高校が優勝、晴れの甲子園に駒を進めることになったのです。

いずれにしても葦原側よりなにか話があるだろうから、それから方針を決めることに当方は皆で相談しておりました。甲子園出場までOB連発手吉舞の忙がしさです。これでもまだ今年も実現出来ないのかなあ!!と思われまして、8月下旬に中村氏より青山・葦原戦について第2回の打合せを持ちたい旨申入れがありました。その話会で実施日は9月24日と決定しました。試合の方法は種々ありましたが、一試合とし、常時35才以上3人が出場する。在校生は含まない。但し35才以上については、出たり、引込んだりは自由とするという特別ルールを援用しました。場所は商業高校野球場、試合後の懇親会は青山会館として、試合運営は葦原で、そして懇親会に關しては青山で総べてを各部門で責任を持つこと、費用について

はボール代、審判員は公認審判員とする。その費用等は両軍で折半するということになりました。試合に先立ち双方から挨拶をする人を出すこと、会を代表する人か、学校を代表する人であること、懇親会の時も同様とする。試合開始時刻は午後、時三十分から戦後初の青山・葦原戦が行なわれることになった。

試合当日何人集合してくれるか、後の懇親会に出席するのは何人になるか? 24日を待つだけとなりました。

試合経過はぬきにしまして戦いの日集合人員は後掲しますが、試合の準備万端は葦原さんのご好意で復活第一回青山・葦原OB戦とアラカードまで用意して、バックネットに掲揚してくれまして、記念写真をするように写真師を呼んで置いてくれました。全く行き届いたことに感謝している次第です。審判には社会人野球の多田、阿部、宇浦、大沢の四君が来場してくれ、葦原の玉木さん、青山の堀さんの挨拶も終り、試合開始のプレーとなりました。総監督という私も一応サインは、バント、盗塁、スクイズプレーの三種類だけ決めまして、後はお互いに夫々プレーしてくるよう云っておきました。私が軍の選手は総てにおいてスバラン出来たので、監督など必要のないフェインプレーを随所に加え、満塁ホーム、2ランホーム、適時打などで十七点を記録しました。

新聞によれば「心も軽やか……往年の球児、満塁ホームランも17-9、第一戦青山勝つ」青山・葦原復活OB戦と大々的に報道されました。あとの懇親会も前に述べたように、若い青山側の皆様のお骨折により、すばらしい会場となり、会も盛会で本当に有意義な一日となりました。

久しぶりに野球のユニフォームに身を固めて、その何も云えぬ緊張感がさわやかであった。試合の前に一応練習をやってみたものの、口ほどに体の方が動かず、こゝでまた寄る年波を改めて痛感した次第である。しかし、試合には二十五才以上の者が常時三人以上出場しなければならぬという嬉しいルールがあつて、自分にも出場の機会を与えてもらった。ささめるような(自称)快打を右中間に飛ばして面目をほこしたといえれば皆川先輩のお年を感じてみれば皆川先輩のお年を感じ

皆川登良夫 (13)市島正男 (17)小林幸男 (24)福島敬吉 (25)平山詩郎 (26)高村信、椎谷治一郎 (27)阿部秀男、山田一介、(28)真島光高、渡部稔、小島汎、(29)田村誠一、(30)中野久、(31)松正一、(32)高橋昇、(33)丸山明男、(34)大塚忠雄、藤原正博、(35)堀越久夫、(36)大岡幸博、成沢林太郎、(37)杉本勝、瀬倉一夫、(38)竹内公英、外に前新潟高校野球部長の志賀哲夫先生。

青山・葦原 OB戦に参加して 58回 宮川 幸司

最終に種々お骨折下さいました、嘉村、渡部、中野君、外の若手の人達に厚くお礼申し上げまして擲筆します。

(5)面1段目につづく

(4面7段目よりつづく)

させぬ好投手ぶりをはじめ、好守好走、好打の乱れ飛んだ中、一本に過ぎなかったことを告白しておく。

これで味をしめたわけでもないが、次回は是非ソフトボール組のチームを作って参加者全員が出場できるように取り計っていた、きたいと思う。しかも硬式ボールでなければ面白味が半減するだろうことと付け加えておきたい。

ところで、このたびのOB戦は戦後復活第一線と銘打って行なわれた。戦後三十年も経って今さら「復活」もあるまいという声もあつたようだが、その昔は新潟の野球ファンを二分したほどの伝統ある青山、草原戦であつてみれば、そのOB戦の再開はまさに「復活」であり、これを現況させた意義もまた大きいと云えよう。両校の諸先輩ならびに幹事の皆さんのご努力に心から敬意と感謝の意を表する次第である。

そういうのは、最近新潟でこの種の対抗戦が殆んど見られなくなつたのはどういふわけであろうか。スポーツも多様化して一つのものに集中する雰囲気なくなつたのか。高校の数が増え過ぎたためなのか。願わくば、何事にもそうであるように新潟モンの消極性の故であつてはほしくない。

このこと、新潟の高校野球のレベルの低さと無関係でなさそうである。一人でも多くの諸先輩が母校の野球部に関心をもち、接触

し、援助することがいかに高校生への張り合いとなるか計り知れないものがあると思う。このOB戦は、そのまゝ、新潟市野球界の長老、リーダーの方々の集りと言つて過言ではないのだから、この人達がOB戦の親睦を通じ、その団結力を軸としながら、高校野球のレベルアップを計っていくならば、必ずや好結果を生むだろうし、ひい

追悼

「裸の堅太氏を語る」

齋藤英二氏邸にて



(註) 齋藤英二氏(磯)は磯部佐吉氏(種)は記録役の樋口を示す。対談も紙面の関係で要約したことをわびたい。

(齋) 「私と田中さんの仲は兄弟同様、家ぐるみのつきあいだから、書くにしても何から書いて、かわからないんだ。それでこうして語り合いを願つたわけだ」
(種) 「実は磯部氏の安吾記でも今の生徒にどうだろうという遠慮だ。そういうことなしに裸で書いて貰いたい」
(磯) 「そんなにいつても書く身になつてみないで」(笑)

それは新潟野球界全体のレベルアップにつながるものと思う。そうなつてこそ本当の意味でこのOB戦復活の意義が生きてくるのではないだろうか。
ひきびきに硬式野球の魅力に触れて少々コーン気分であつたかも知れぬが、以上感じたまゝ、を述べさせていた、いた次第である。
磯部も二本だが
(磯) 「いや俺は負けんかつた」
(種) 「まあとに角次に花札ね、そんなことで金に困つて田中さんのカメラを質に入れる」
(磯) 「あれは俺がくつたのだ」
(種) 「そこが空くと今度は俺次は座頭が入れる……という訳で順ぐりに入れるから田中さんのは一年も戻つてこない。そんな仲だつた」
(種) 「羨しいような仲だナ」
(齋) 「ウン。僕らは毎年キャンプに行った。その年日光へ行つた。俺達はリュックしよつたり鍋つまらなや……。しかし社葬は田中さんの思い通りに、二つの楽団音楽祭もあつて、あんな立派な葬儀はないね」感無量……。気を取りなして、俺と田中さんのそのもそもはだね、二年の放課後田中さんが、齋藤博といさかひやるからお前立ち合つてくれ、なんで俺が立合ひなんかできようばい、まあい、からついでにい、よし、いぐワ」ということで立ち合つた。田中さんは膝にようかんなかかしてたが、例の利かん気であつた。結局勝負つかずに家に帰つたが、

それからというものは余計ケンタ・エイジの仲になつた。俺は四年で明治へ行く、真似して五年に田中、磯部、北条、佐藤俊夫(座頭)達が出来た。だから大学も一緒だ。その頃私と磯部が中野に家を借りてると、まず土曜から田中、佐藤、板垣、小田、荻森、香取連だ。来るとまず玉だ。やつぱり田中さんが一番うまい、三本は突いた。磯部も二本だが
(磯) 「いや俺は負けんかつた」
(種) 「まあとに角次に花札ね、そんなことで金に困つて田中さんのカメラを質に入れる」
(磯) 「あれは俺がくつたのだ」
(種) 「そこが空くと今度は俺次は座頭が入れる……という訳で順ぐりに入れるから田中さんのは一年も戻つてこない。そんな仲だつた」
(種) 「羨しいような仲だナ」
(齋) 「ウン。僕らは毎年キャンプに行った。その年日光へ行つた。俺達はリュックしよつたり鍋つまらなや……。しかし社葬は田中さんの思い通りに、二つの楽団音楽祭もあつて、あんな立派な葬儀はないね」感無量……。気を取りなして、俺と田中さんのそのもそもはだね、二年の放課後田中さんが、齋藤博といさかひやるからお前立ち合つてくれ、なんで俺が立合ひなんかできようばい、まあい、からついでにい、よし、いぐワ」ということで立ち合つた。田中さんは膝にようかんなかかしてたが、例の利かん気であつた。結局勝負つかずに家に帰つたが、

だね」
(齋) 「そいんだ。そこで堅太氏という、キャンプ張るとどうそんな中に入つてコレですワ(パイオリンを弾く仕事をやる)笑」パイオリンにもしないんだ。でも私達のキャンプ場は名物になつたんです。遊覧船がコースを変えてわざわざ我々の側を通つて行くようになった」
(種) 「堅太氏のパイオリンのためか」
(齋) 「それもあるが、実に整然たる物腰、すべてが雑然としていないんですね。雨で三十八時間も降り通された。飯がなくなつてパチできめて私と座頭が負けて半里(二キロ)先の宿屋へ買い出し、桐油紙かぶつて出る時、お湯沸かしてすぐ食べられるようにと頼んでいつた。帰つて来たら連中ナンにもしていない、手前達はありつたけの缶詰なんかみんな食べて腹一杯になつて、クツサイ尻なんかこいていやるが(笑)そん中に田中君はパイオリン弾いてた。いや怒るに怒られんかつたですよ。それから大正十二年八月初め、二人で黒部へ行つた。當時は道なんかなくて、崖つち渡らたつて針金で丸太くつた位で岩にへばりついてか二の横歩きみたいにして渡らんだ。鐘釣で泊つたら黒部西川を出てくれた、それがウマクつてウマクつて、田中はあんまり食い過ぎて便が出せけんなる。オー、齋藤齋藤なんていうが、例の道は狭し下は断崖、ゲートルばきだししゃがむなんてできない、

猿股の紐も解くことができない始末だ。それで田中は崖の細木につかまり俺がナイフで猿股切つてサ(笑) 思い出は尽きないが、田中さんは豪気の一面細かい事に気付く人で、全市疎開の時、俺は兵隊へ行つてた。俺の母の事を思い出して軍の車を無断で運転して、母を抱いて御館まで運んでくれた。俺は帰つて来て、実に、俺は田中さんの前に頭を下げたネ」(涙ぐむ)
(磯) 「彼が偉かつた思い出に事業の話の時、俺は人間が好きなんだ」といつた事だ」
(齋) 「そうだ、彼の兄さんもかぶとをぬぐと認めておられた」
(磯) 「あの頃はユニークな人間が多かつた」(同感)「全くだ、あの我々の寄贈曲にあるボロ校舎の味、そこに学んだ者の気持なんだ」
(種) 「あの頃の堅太氏を含めて君達豪傑はおつかなかつたが、同窓は有難い、こうして今はつきあえる」(後は旧友・同期会の話に花が咲き、正月六日の夜の更けるのも忘れたのだ)

46回定期例会

入学時二二七名
卒業時一九三名
生存者一六三名の内
近況不明二十名
四割は毎年出席
秋深い十月の夜、白山会館に於て定期同期会を開催。集う者四十有一名。例年遠隔の地より新顔が参加するので、まことにたのしみである。地元新潟及その周辺の外、東京・埼玉・郡山・長岡・十日町・仙台等からも参加あり。幹事挨拶と会務報告、欠席者の返信葉書に記載してある近況の報告、御出席の菅原先生の近況や御挨拶等があつて後、乾杯開宴。我期は高橋前教官や早見現事務長等同級生が本校に在職されている事や、鶴巻君が熱心に住所録や近況集の作成、送附をして下さる事などで、年々出席者が増大し、消息不明者が漸減し、遠隔地からも参加される等、各期の中では最も活発の方であると思う。併し若い人達に言わせれば「ナニ……そのううう年代になつたのサ。それも一理ある。話題も健康や、息子の娘の嫁話、孫が生れた話、等大分世帯じみた事の多いものやむを得ない。
併し乍ら宴たけなわともなれば、急に若返つて、玲瓏の天、つわもの、霞たなびく等次々と歌い出し、敗戦歌でしめく、る事などは何事になつても変らない。菅原先生も強要されて昔なつかしい詩吟を朗々とつたわれる。
最後に与党として市会副議長の椅子についた大桃君がバカデカイ声で音頭をとつて万才三唱して幕となる。
不況且つ生きにくい此の世に心あた、まる行事として、例え年一回であつても、今後ともつづけてゆきたいと思つ次第である。
(横山記)

40回卒業者 クラス会概況

井上三郎

「俺が役人生活全国転々末新
潟に帰って間もないのに、調停委
員のほか遊んでいるので会をひら
けと云われた。卒業後茫々はや四
〇余年、頭髮薄、白髪多、その
後の経歴、家情亦多岐ならん。相
集い、往時を語り、近況を報じ同
窓の消息をかわさん。西大畑地獄
極楽通り奥住人。こんな案内状が
全国にちらばる昭和八年卒業者に
廻ったのは秋も末。

とき十一月八日夜、ところ新潟
市東中通小林ホテル。出席者後記
二十七名。いずれも世の風雪に堪え
おのれに責任を持ち自信に溢れた
顔、顔、顔。恩師、同級生物故者
のため黙祷のうえ、自己紹介に入
ったが在学当時の能弁、温厚の俣
の者、重厚に飄還を加えた者、寡
黙者が話術軽妙に一変した者、孫
の数を誇る者あり、娘の縁談の持込
みあり、果ては選挙の事前運動を
なす者あり、等々秋長夜ために短
かし。経歴も父業継承者、一貫職
不変者、医業、会社、議員、二度
のつとめの者、悠々自適の者等多
岐は当然か。旧校歌斉唱の指揮を
指名された井上は一節から「玲瓏
の天を望んで」爆笑を、選参す
でに酩酊の広瀬の「強者等」に四
〇余年を若かり会は深更に及ん
だ。次回は会場を新潟、東京の中
間六日町辺とさる。これは同町
女子高校長松田の「威令あまねき

裡に」の期待である。当日の盛會
は会場主小林の奉仕と多数寄附者
にもよる。また片桐の緊急動議で
当日の様様と記念撮影を母校と欠
席者に後送、余剰あれば慶弔者が
でた場合、幹事または近くに住む
者より金品を携え訪問することが
きまり、とり敢えず出席者全員が



五〇〇円を提出した。入学時五
五、四学年終了時一九八、会開催
時調べによる現住確認者九五、物
故者五三、消息不明者五二が現況
出席者氏名(〇印幹事、なお一名
は東京の予定)は左のとおりであ
る。

参加者 浅妻直末、阿部富衛、阿
部芳男、石田政一、池田政男、〇
井上三郎、井村繁樹、枝並重太郎
片桐靖司、小柳毅、〇小島松一、
後藤功、〇小林札四郎、齋藤久、
佐野武次、関國吉、大黒尚、高橋
富英、小泉、竹中忠吉、竹林正五
郎、田辺仇、〇平田甚、広瀬正威、
本間章、松田一郎、吉岡武憲、若
佐裕 以上

燦たり 48期会

九月十七日、市内在住の幹事が
参集して、五十年度四十八期会開
催の初会合が持たれ、十一月十五
日の土曜日午後五時半から割烹萬
代で会費八千円と決まり、国語を
担当しておられた「青豚」こと阿
部利三郎先生をご招待することに
なった。早速当夜電話で一応ご連
絡申し上げ、二十四日小生が村上
市本町飯野中区で悠々ご自適の先
生宅にお伺いし、あらためてご出
席をお願いした。先生は大愛喜ば
れて、高血圧症でご治療中の処を
お出で下さることになった。その
後細部の打合せもすませ、いよいよ
当日となった。午後五時に先生
を駅までお出迎えし、開会までの
間別室で、昨年越後湯沢温泉で淡
路島から「片金」こと中野正之先
生をお招きした折のアルバムや、
同期生諸君の近況を記した出欠の
葉書などごらんになっていただいた
てしばしおつろぎを願う。その
うち陸統と往年の悪童猛者連中が
参集し、今回は新顔の多いせい
かあちこちで「おーおー」の連発で、
肩を叩き合い、手を握り合つて、
太ったの、頭があめたのと、たち
まちかつての教室での口きがない
光景が再現せられる。先生は七十
三才とのことだが三千数年前の我
々の顔と名前とやつた悪事の数々
まで美によく覚えておられて、車
座になった一同頭を掻き掻き談笑
する。

六時大橋カメラマン(洋食器店
社長)が皆にやじられながら記念
撮影をし、同君の司会で、昨年の
同期会以降に死亡された風間善雄
(医師)、錫村春海(薬剤士)、面君
の冥福を祈つて黙祷。続いて大塚
幹事長(大市社長)の開会の挨拶
あり、わが四十八期会は今後新潟
市での日帰り他所での一泊と交
互にすることとし、来年は越後湯
沢か水上で一泊で開催することを
満場一致で可決。次で東京から馳
せ参じた田村君(不動産社長)か
ら関東在住諸君の近況報告があつ
て先生がご挨拶に立たれた。冒頭
先づ教壇でうそばかり教えていた
私をご招待下さつてほんとうにう
れしいこと。又生家が新発田藩の
柔術師範の家柄だったので六才の
頃から毎朝家の周囲を走られる
というスパルタ教育を受けたため
自分ではそれほど思わなかった
事が諸君には随分きびしい教え方
だったのではないかと反省してい
ること。更に新中赴任時の月給は

五十円で、しかも五年間昇給無し
で務めたことなど秘められたエビ
ソッドが語られ、最後に長年の教
員生活中この新中時代が最も充実
し楽しかったと結ばれる。

小生の首頭で乾杯。二分間の自
己紹介を混えてにぎやかな宴会と
なる。宴たけなわの頃、先生が立
つてあだ名の「青豚」の由来をは
じめて明かされ、一同爆笑。そし
て夕の感謝をこめて次の歌二
首を朗詠される。

幾十年昔のちぎりに
統きて今宵酒汲みかわす
続きて今宵酒汲みかわす

昨年六月二十一日(土)、昭和三十
年入学して、丁度二十年目、久
しぶりに第二回目の同級会が開か
れました。入学当時は、火災直後
で校舎もなく、体育館を仕切つた
教室と、グラウンドの東側のバラ
ックで二部授業など不便をかこ
つていました。多少古くなったの
ですが復興なった校舎と、新しい
青山会館を見るため、集會場所を
青山会館(横山先生の発案)とし
ました。準備がまつき、どれだ
け参加してくれるか、幹事は心配
していましたが、遠く千葉より杉
山(道)、星岡君が、横浜より居城
広田両君、東京より田辺(弘)君が
わざわざかけつけてくれ、一、二、三
年次担任をしていただいた横山先
生を含めて二十一人となった。……

なつかし顔また顔に囲まれて
今宵の我はうれしきに酔う
先生は「日本海潮鳴りいでてす
ぎ釣る岩場さびしきゆふべとな
りぬ」の詠進歌で、全国に知れ渡
つた歌人であられることは知る人
ぞ知る。一同古き良き時代に良き
師に恵れた喜びと、お招きしてほ
んとうに良かったという感激にし
みじみと浸つたことである。

やがて酔うほどに国手佐藤君が
上衣をなつかしいえび茶の旗代り
に振つて応援歌の大合唱となり、
最後に校歌の斉唱と乾杯で盛大な
大盛會。

お聞きとなった。
翌朝先生から小生にお礼のお電
話があり、更に幹事諸君にも丁寧
な礼状が届いた由、先生の誠実な
お人柄に感銘をあらたにした次第
である。

当夜のスナップはアルバムに編
集して後日先生にさし上げる予定。
案内状送付二〇名、欠席の返
事四一名、出席者三二名。
そのかみの教壇での仕事そのま
まに、
恩師カメラにポーズとり給う
(水戸正郎記)

二次会、三次会と進んでも、さ
つぱり酒、料理に手もつげず、も
つぱら、なつかしい話ばかり。
卒業して十七年たつのに、わず
か三年間の学校生活や、旧友がこ
んなにもなつかしく、身近かに感
じられるのだろうか。
今後あまり遅くならないうちに
第二回目を開きたいとの要望が、
しきりと出て、幹事達を喜ばせた。
(矢田)

◎二次会での写真
「後列」 「中列」 「前列」
田辺(弘) 多賀(入山)
坪井 加藤(孝)
山谷 (山田)
高島 富田
星 (佐藤後)
矢田 横山先生
広田 福田
佐藤 西原 高橋
尾城 山原 室橋 池田
杉山(道) 山原 室橋 池田
佐藤 山原 室橋 池田
尾城 山原 室橋 池田

なつかし顔また顔に囲まれて
今宵の我はうれしきに酔う
先生は「日本海潮鳴りいでてす
ぎ釣る岩場さびしきゆふべとな
りぬ」の詠進歌で、全国に知れ渡
つた歌人であられることは知る人
ぞ知る。一同古き良き時代に良き
師に恵れた喜びと、お招きしてほ
んとうに良かったという感激にし
みじみと浸つたことである。

やがて酔うほどに国手佐藤君が
上衣をなつかしいえび茶の旗代り
に振つて応援歌の大合唱となり、
最後に校歌の斉唱と乾杯で盛大な
大盛會。

